

校長印		教頭印		教頭印	
-----	--	-----	--	-----	--

国語科	科目名	文学国語	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	<p>1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2. 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。</p> <p>3. 言語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化に担い手としての自覚を深め、言語を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			
評価基準及び方法	<p>ア. 授業に取り組む姿勢</p> <p>イ. 定期テストの得点</p> <p>ウ. 小テストおよび課題提出</p>			
使用教科書及び教材	<p>・新編文学国語（三省堂）</p>			
その他留意点	<p>・さまざまな視点や立場に立って考える習慣を養う。</p> <p>・語彙力の向上を図る。</p>			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法
4	1 小説の言葉・詩の言葉 ○夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について ○詩はいつでも近いところにある	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉える。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。
5	2 小説 ○山月記	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特徴について理解を深める。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。 ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを解釈しようとする。

6	2 小説 ○少年という名のメカ	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特徴について理解を深める。 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを解釈しようとする。
7	3 詩歌 ○今日 ○私を束ねないで ○帰途 ○木に花咲き一短歌十五首	<ul style="list-style-type: none"> ・表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 ・それぞれの短歌に詠まれた情景や心情を理解する。 ・日常生活の中で感じたことをもとに短歌を創作する。
9	4 小説 ○ひよこの眼	<ul style="list-style-type: none"> ・回想形式に留意して、小説の内容を理解する。 ・非現実的な設定をもつ小説の魅力について理解する。 ・解釈の根拠を明確にし、引用を工夫して、説得力のある書評を書く。
10	5 翻案 ○ありときりぎりす ○翻案作品をつくる 「姥捨」	<ul style="list-style-type: none"> ・翻案小説の魅力について考える。 ・古典を題材にして翻案小説を書く。
11	6 戯曲の言葉 ○戯曲の中の「対話」	<ul style="list-style-type: none"> ・芝居のせりふと日常会話、戯曲の痴話と小説の会話の違いを理解する。 ・読み合わせをして戯曲の言葉の特徴をふまえ、小説の一節や短い物語を戯曲に書き換える。
12	6 戯曲の言葉 ○戯曲 書く女	<ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然などに対するものの見方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、作品の内容や解釈を踏まえ人間、社会、自然に対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。
1	7 小説 ○こころ	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 ・作品世界が現代に投げかけている問題について考える。 ・映画と原作との違いを通して、小説の表現と映画の表現の違いについて理解を深める。
2	7 小説 ○捨てない女	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えると同時に、作品が成立した背景や、他の作品などとの関係を踏まえ、解釈する。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・進んで、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特徴につ

		いて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈しようとする。
2 3	8 評論 ○小説はどう読めばいいのか？ —太宰治『斜陽』の語り口	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読者の意義と効用について、理解を深めている。 ・文章の種類を踏まえ、解釈の多様性について考察する。 ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、考え方を深めようとする。

校長		教頭		教頭	
印		印		印	

国語科	科目名	言語文化	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	1. 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成する。 2. 伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 3. 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			
評価基準及び方法	ア. 授業に取り組む姿勢 イ. 定期テストの得点 ウ. 小テストおよび課題提出			
使用教科書及び教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新編言語文化（大修館書店） ・これからの国語シリーズ 漢字検定5～2級+短文書写 実践文字力トリプルチェック（尚文出版） ・いきいきとアライブ 国語 総合演習・実践対策（浜島書店） ・読解+漢字と言葉 基点◎現代文ゼミ（浜島書店） 			
その他留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな視点や立場に立って考える習慣を養う。 ・語彙力の向上を図る。 			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法
4	現代文編1 ことばと出会う ○言葉の森を育てよう ○季節の言葉と出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。 ・日常使っている言葉を見つめ直す。
5	古文編1 古文に親しむ ○古文への招待 ○いろは歌 ○児のそら寝	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ・受け継がれてきた古文を音読し、響きやリズムを味わう。
6	古文編2 随筆を楽しむ ○徒然草 ○枕草子	<ul style="list-style-type: none"> ・音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。
7	現代文編2 表現を味わう ○とんかつ	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。
9	漢文編1 漢文に親しむ ○訓読のきまり ○格言	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉える。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。

	○再読文字	
10	漢文編 2 現代に生きることば ○守株 ○五十歩百歩 ○蛇足 ○借虎威	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読のきまりについて理解する。 ・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 ・故事成語についての理解を深め、教訓の意義を理解する。
11	現代文編 4 物語を受け継ぐ ○羅生門	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。
12	古文編 3 物語の広がり ○伊勢物語 ○平家物語	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を読み取る。
1	古文編 4 旅への思い ○土佐日記 ○更級日記 ○おくのほそ道	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 ・作品の主題と表現の特色を理解する。
2	漢文編 4 漢文を楽しむ ○完璧 ○鷄鳴狗盗 ○人面桃花	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を通して漢文訓読の口調に習熟する。 ・古人が示した知恵や教訓について、正確に理解する。
3	現代文編 詩歌の調べ ○春のうた 夏のうた 秋のうた 冬のうた	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。

校長印		教頭印		担当印	
-----	--	-----	--	-----	--

沖縄県立浦添工業高等学校

令和5年度シラバス

科目	歴史総合	単位	2単位	学年	2年
使用教科書	高等学校 新歴史総合(第一学習社)	副教材等	新歴史総合ノート(第一学習社) 明解歴史総合図説シンフォニア(帝国書院)		

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----------------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト
4	②歴史の特質と資料	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○	○	○	
4	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○	○	○	
5 9	第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 結び付く世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	<ul style="list-style-type: none"> 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 単元テスト 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 		○		
9	近代化と現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 単元テスト 定期考査
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 単元テスト
10 11	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 単元テスト 定期考査
11 12	第2節 経済危機と第二次世界大戦 第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響な 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 単元テスト 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>どに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>			○	
12	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	<p>・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。</p> <p>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
1	第3章 グローバル化と私たち グローバル化への問い	<p>・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。</p> <p>・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○		○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
1 2	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	<p>・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。</p> <p>・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p> <p>・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
2 3	第2節 世界秩序の変容と日本	<p>・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。</p> <p>・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。</p> <p>・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>
3	現代的な諸課題の形成と展望	<p>・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p> <p>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。</p> <p>・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</p>	○	○	○	<p>・授業態度</p> <p>・発問評価</p> <p>・提出課題</p> <p>・小テスト</p> <p>・定期考査</p>

令和5年度 シラバス

沖縄県立浦添工業高等学校

校長印		教頭印		担当印	
-----	--	-----	--	-----	--

地理歴史 科	科目名	沖縄の歴史		
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	沖縄の歴史と文化に興味・関心を持たせ、主体的に学ぶ力や、郷土の歴史・文化について考える力の基礎を養う。			
評価基準及び方法	○各学期の定期考査 ○歴史新聞 ○調べ学習レポート ○ノート（書き込み教科書）まとめ ○授業態度・意欲			
使用教科書及び教材	教科書『書き込み教科書 琉球・沖縄の歴史と文化』（新城 俊昭 著 / 東洋企画）			
その他留意点	① 琉球・沖縄の歴史的特質や諸地域との交流の把握、文化や伝統に興味関心を持たせること。 ② 琉球・沖縄の文化について主題を設定し追求することで、歴史的な見方や考え方を身に付けさせること。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	先史時代の沖縄	旧石器時代と貝塚時代について理解できるようにする。 資料・年表を利用し、日本史との年代関係を理解する。	
5	琉球王国の時代	グスクとは何か、王国誕生、尚巴志の統一、王国の繁栄、朝鮮中国との交易、三線の伝来などを理解する。	期末考査
6			
7	薩摩の侵入と琉球王国	島津氏の侵入、薩摩の琉球侵攻と支配、蔡温の王府再建、農民の生活、人頭税、琉球の産業、琉球文化等について理解する。	レポート
9			
10	琉球王国から沖縄県へ	明治政府による「琉球処分」で琉球王国の解体の流れを理解するとともに、欧米の明治政府への圧力を考える。	期末考査
11			
12	十五年戦争と沖縄	十五年戦争と日中戦争のはじまり、軍国主義教育の開始、沖縄戦の状況について理解を深める。	
1	米軍統治下の沖縄	戦後からの回復、米軍基地建設、米軍支配、そして日本復帰への道をたどる。	レポート
2	復帰後の沖縄	復帰をどう受け止めたか、何が変わったか、基地問題の変化、21世紀の展望と沖縄文化の発展について考える。	学年末考査
3			

令和5年度 (2年選択A群：数学基礎I) シラバス

数学科	科目名	数学基礎 I (2年選択A群)	担当	
履修学科	情報技術科・建築科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	1学年で学習した数学Iの内容を繰り返し学習・演習することによって、更なる基礎学力の定着と向上を目指す。			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・数と式、図形と計量、二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	・各定期考査 ・単元テスト ・ワークシート等	・各定期考査 ・単元テスト ・ワークシート等	・行動観察 ・課題等の提出状況	
使用教科書	・ポイントノート数学I (数研出版)			
その他	① 更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。 ② 演習形式で授業を行う。			

	校長	教頭
押印		

令和5年度 数学基礎Ⅰ 学習計画

月	単元名		学習内容と方法	備考	
4	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	1. 計算の基本		
5			2. 単項式と多項式		中間考査 (5月)
6			3. 多項式の加法と減法 4. 多項式の乗法 5. 展開の公式		期末考査 (6月)
7		第2節 1次方程式	1. 1次方程式 2. 不等式 3. 不等式の解		
9	第2章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	1. 関数		
10			2. 1次関数のグラフ 3. 2次関数のグラフ(1) 4. 2次関数のグラフ(2)		中間考査 (10月)
11		第2節 2次関数の値の変化	1. 2次関数の最大値、最小値 2. グラフと2次方程式 3. グラフと2次不等式		期末考査 (11月)
12	第3章 図形と計量	第1節 三角比	1. 直角三角形		
1			2. 三角比 3. 三角比の利用 4. 三角比の相互関係 5. 鈍角の三角比		
2		第2節 三角形への応用	1. 正弦定理		学年末考査 (2月)
3			2. 余弦定理 3. 三角形の面積		
			総復習		

令和5年度 数学A シラバス

数学科	科目名	数学A	担当	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価方法	・各定期考査 ・ワークシート等	・各定期考査 ・ワークシート等	・行動観察 ・課題等の提出状況	
使用教科書	使用教科書：最新 数学A（数研出版）			
その他	更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。			

	校長	教頭
押印		

令和5年度 数学A 学習計画

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数	1. 集合	中間審査 (5月)
5			2. 集合の要素の個数	
6			3. 樹形図、和の法則、積の法則	期末審査 (6月)
7		4. 順列		
9		第2節 確率	5. 円順列と重複順列	
			6. 組合せ	
			7. 確率の意味	
			8. 確率の計算	
			9. 確率の基本性質	
			10. 和事象の確率	
			11. 余事象の確率	
			12. 独立な試行の確率	
			13. 反復試行の確率	
			14. 条件付き確率	
			15. 期待値	
10	第2章 図形の性質	第1節 三角形の性質	1. 角の二等分線と比	中間審査 (10月)
11		第2節 円の性質	2. 三角形の外心・内心・重心	
			3. チェバの定理・メネラウスの定理	期末審査 (11月)
			4. 円周角の定理	
			5. 円に内接する四角形	
			6. 円と接線	
			7. 接線と弦の作る角	
			8. 方べきの定理	
			9. 2つの円	
12		第3節	10. 基本の作図	
			11. いろいろな作図	
		第4節 空間図形	12. 空間における直線と平面	
			13. 多面体	
1	第3章 数学と人間の活動	1. 約数と倍数	1. 約数と倍数	学年末審査 (2月)
2		2. 1次不定方程式	2. 素数と素因数分解	
		3. 記数法	3. 整数の割り算	
		4. 座標の考え方	1. 最大公約数	
			2. ユークリッドの互除法	
			3. 1次不定方程式	
			1. 古代の記数法	
			2. 現代の記数法	
3		5. ゲーム・パズルの中の数学	1. 平面上の点の位置	
			2. 空間上の点の位置	
			1. ゲームの中の数学	
			2. パズルの中の数学	

令和5年度 数学応用A シラバス

数学科	科目名	数学応用A	担当	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	<p>いろいろな式，図形と方程式，三角関数の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</p>			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	<p>いろいろな式，図形と方程式，三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各定期考査 ワークシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 各定期考査 ワークシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 課題等の提出状況 	
使用教科書	使用教科書：最新 数学Ⅱ（数研出版）			
その他	更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。			

	校長	教頭
押印		

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	第1章 式と証明	第1節 式と計算	1. 多項式の乗法と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式の乗法・除法 5. 分数式の加法・減法 6. 恒等式	中間考査 (5月)
5		第2節 等式・不等式の証明	7. 等式の証明 8. 不等式の証明 9. 相加平均と相乗平均	
6	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係	期末考査 (6月)
7		第2節 高次方程式	4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式の解法 節末問題 章末問題	
9	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の平方と垂直	
10		第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線	中間考査 (10月)
11		第3節 軌跡と領域	7. 軌跡 8. 不等式の表す領域 9. 連立不等式と領域	期末考査 (11月)
12	第4章 三角関数	第1節 三角関数	1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数を含む方程式、不等式	
1				
2			第2節 加法定理	6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成
3			章末問題	

科学と人間生活 シラバス案

対象教科・科目	単位数	学年・学級
科学と人間生活	2 単位	第 2 学年 情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科
使用教科書・副教材等	東京書籍「科学と人間生活」(科人 701), ニューサポート科学と人間生活、授業に合わせて作成したプリント	
授業担当者		

1 学習の目標

- ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
- ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2 学習計画及び評価方法等

※「評価の方法」の中の「○」は、各項における評価の観点および回数を表す。

学期	月	学習内容	学習活動	考查範囲	評価の方法		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	4 月	序章 科学技術の発展 (2h)					
		科学技術の発展 (2h) <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の歴史と発展 ・エネルギーや情報技術の発展 ・持続可能な未来のために 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会、未来と、科学がどのようにつながっているのかを考える。 ・科学技術の進歩が人間生活にどのような影響をもたらしたかを考え、科学技術が人間生活を豊かで便利にしてきたことや、人間生活に不可欠であることを理解する。 ・エネルギーや情報技術の発展について調べ、それらと科学技術との関わりについて理解する。 ・科学技術の発展が今日の人間生活に貢献してきた反面、それによってもたらされた課題があることを知り、持続可能な社会をつくるための取り組みや自分たちにできる活動について調べ、レポートを作成したり発表したりする。 	1 学期 中間 考查	○	○	○

1 学 期	4 月	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用 (14h) 1 さまざまな微生物 (7h)		1 学 期 中 間 考 査						
		A 身のまわりの微生物 (2h) ・レッツスタート! ・身のまわりの微生物 <観察・実験 1>微生物の細胞の観察 ・さまざまな微生物 ・レッツチャレンジ!	・カビは微生物であることを知り、微生物とはどのような生物かに問題を見いだす。 ・身のまわりにさまざまな微生物が存在することを知る。 ・食品中、水中、空気中の微生物を観察し、それぞれの細胞の大きさや形について考察する。 ・細菌、アーキア、原生生物、菌類に属するさまざまな微生物について理解する。 ・学んだことを生かして、食品を保存する際の注意点を考える。					○		○
		B 生態系における微生物のはたらき (2h) ・生態系のなかでの微生物の役割 <観察・実験 2>土壌中の微生物のはたらき ・微生物のはたらきと炭素の循環 ・レッツチャレンジ!	・生態系における微生物の役割について考え、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 ・土壌微生物の分解者としてのはたらきを調べ、確かめる。 ・生態系における微生物のはたらきと炭素の循環について理解する。 ・学んだことを生かして、微生物の有機物を分解するはたらきについて考える。					○ ○	○	
		C 窒素と微生物のはたらき (2h) ・大気中の窒素と微生物のはたらき <観察・実験 3>根粒の観察 ・微生物のはたらきと窒素の循環 ・レッツチャレンジ!	・根粒菌が大気中の窒素から窒素化合物を合成していることを理解する。 ・根粒菌を観察し、根粒菌の存在を確認する。 ・生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。 ・学んだことを生かして、田畑における肥料の重要性について考える。					○		○
	D 水中の微生物のはたらき (1h) ・水の浄化 ・微生物を用いた環境の浄化	・微生物が、分解者として水の浄化に関係していることを理解する。 ・微生物を利用して環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。	○		○					
	5 月	2 私たちの暮らしへの微生物の利用 (6h)			1 学 期 中 間 考 査					
	A 微生物の発見の歴史 (1h) ・レッツスタート! ・微生物の発見 ・自然発生説を否定したパスツールの実験 ・ウイルスの発見	・レーヴェンフックの顕微鏡の写真を見て、どのようにして微生物が発見されたのかについて問題を見いだす。 ・自然発生説を否定した方法について考え、理解する。 ・微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。	○							
	B 食品と微生物 (2h) ・発酵と腐敗 ・発酵食品の利点 ・発酵食品と微生物の種類	・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 ・発酵食品にはどのようなものがあるかを考え、微生物のはたらきによって、さまざまな発酵食品がつくられることを理解する。	○							○

6月	C 発酵のしくみ (2h) ・酵母による発酵を調べる実験 <観察・実験4>酵母による発酵の反応 ・アルコール発酵とその利用例 ・乳酸発酵とその利用例	・酵母による発酵はどのような反応で、どのような温度条件のときに盛んに行われるかを調べ、酵母によって糖がエタノールと二酸化炭素に分解されることを捉える。 ・アルコール発酵の仕組みとそれによって酒類やパンができることを理解する。 ・乳酸発酵の仕組みと乳製品や漬け物の製造に利用されていることを理解する。	1学期期末考査	○ ○	○	
	D 医薬品と微生物 (1h) ・抗生物質の発見 ・微生物からつくられるさまざまな医薬品	・微生物によってつくられる抗生物質の発見の歴史について理解する。 ・抗生物質以外にも、微生物を利用して有用な医薬品がつけられていることを理解する。 ・バイオテクノロジーを用いた、新たな医薬品の開発などが期待されていることについて考える。		○		○
	章末 (1h) ・学習内容の整理 ・章末確認テスト	・1編1章で学習した内容を振り返り、整理する。 ・微生物とその利用について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。		○		
1学期 4月	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 (14h) 1 ヒトの視覚と光による影響 (3h)		1学期中間考査			
	A 視覚とは何か (1h) ・レッツスタート! ・光の受容と視覚の成立 ・なぜ錯覚が起こるのか	・生まれたばかりの赤ちゃんはまぶしいと感じるのかを考え、どのようにして視覚が生じるかについて問題を見いだす。 ・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ・錯覚、錯視について知る。		○		
	B 眼の構造とはたらき (2h) ・ヒトの眼球の構造 <観察・実験1>ブタの眼球の解剖 ・遠近の調節 ・2種類の視細胞 ・周囲の明るさと瞳孔の大きさの変化 ・体内時計	・ヒトの眼の構造を理解する。 ・ブタの眼球を解剖し、眼の構造を調べる。 ・近くを見るときと遠くを見るとき調節の仕組みを理解する。 ・2種類の視細胞のはたらきを理解する。 ・周囲の明るさと瞳孔の大きさの変化との関係について理解する。 ・1日を周期とした生活リズムについて考え、体内時計と眼との関係について理解する。		○ ○		○
	2 血糖濃度を調節するしくみ (3h)					
A 血糖とは何か (1h) ・レッツスタート! ・炭水化物の消化と吸収 ・血糖濃度 ・体内におけるグルコースの流れ ・レッツチャレンジ!	・ふだんの食事のメニューを想起し、エネルギー源である炭水化物は体内でどのように利用されているかについて問題を見いだす。 ・デンプンの消化と吸収のしくみについて理解する。 ・血糖濃度とそれを維持するための体内でのグルコースの流れについて理解する。 ・学んだことを生かして、血糖濃度が低下したときの体への影響を考える。	1学期中間考査	○	○		

5月	B 血糖濃度の調節 (2h)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンによる血糖濃度の調節 <実習 1>インスリンとグルカゴンのはたらきを考察しよう ・血糖濃度の調節のしくみ ・糖尿病 ・レッツチャレンジ! 	<ul style="list-style-type: none"> ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・食事の前後の血糖濃度, インスリン濃度, グルカゴン濃度のデータから, それらのはたらきについて考察する。 ・血糖濃度を調節するための仕組みについて理解する。 ・糖尿病について理解する。 ・学んだことを生かして, 糖尿病と人間生活との関わりについて考える。 		○	○	○	
	3 体を守る免疫のしくみ (3h)							
	A 感染症から体を守るしくみ (2h)	<ul style="list-style-type: none"> ・レッツスタート! ・免疫を支えるリンパ球 ・B細胞の飛び道具としてはたらく抗体 ・抗原抗体反応の特徴 ・次回の感染への備えとしての免疫記憶 <実習 2>免疫記憶の利点を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいや手洗いの重要性について考え, 病原体から体を守るための仕組みについて問題を見いだす。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・抗原抗体反応の仕組みと特徴について理解する。 ・免疫記憶について理解する。 ・一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のデータを基に, 免疫記憶の利点について考察する。 	1 学 期 中 間 考 査	○	○		
	B 免疫のしくみと日常生活 (1h)	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種で感染症を予防するしくみ ・免疫反応によって起こるアレルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種の意味を考え, 予防接種で感染症を予防する仕組みについて理解する。 ・免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。 		○	○		
4 生命現象の大もととなる遺伝子のはたらき (4h)								
6月	A 遺伝子と DNA (2h)	<ul style="list-style-type: none"> ・レッツスタート! ・DNAの構造 ・遺伝子とDNAの関係 <観察・実験 2>DNAの抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の形や性質などの特徴が子や孫に現れることがあることを想起し, 遺伝について問題を見いだす。 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・動物, 植物, 菌類などからDNAを抽出する。 	1 学 期 期 末 考 査	○	○		
	B DNAの遺伝情報からタンパク質へ (1h)	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質をつくるアミノ酸 ・転写と翻訳 ・レッツチャレンジ! 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質はアミノ酸がつながってできていること, タンパク質によってアミノ酸の並び方は決まっていることを理解する。 ・DNAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について考え, 理解する。 ・転写と翻訳について自分なりの表現で説明する。 		○		○	
	C 体内ではたらくタンパク質 (1h)	<ul style="list-style-type: none"> ・体内ではたらくさまざまなタンパク質 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり, それぞれ, さまざまなはたらきをもっていることを理解する。 		○			
	章末 (1h)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・1編2章で学習した内容を振り返り, 整理する。 		○			

		・章末確認テスト	・ヒトの生命現象について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。				
1 学 期	6 月	2編 物質の科学					
		1章 材料とその再利用 (14h)					
		1 リサイクルとは何か (1h)					
		A 資源の再利用と 3R (1h)	・ガラス瓶とペットボトルの比較を基に、資源を再利用するための方法について問題を見いだす。 ・循環型社会を目指す必要性と 3R について理解する。 ・ガラス瓶における 3R について理解し、それぞれの利点について考える。	1 学 期 期 末 考 査	○		○
	2 金属の性質とその再利用 (6h)						
	A 金属の性質 (1h)	・金属と非金属の性質の違いを比較して、金属の構造について問題を見いだす。 ・金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。	1 学 期 期 末 考 査	○			
	B 異なる金属の区別 (2h)	・金属の分類について理解する。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べる。 ・実験結果を基に考察し、金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いについて理解する。		○ ○	○		
C 金属の製錬と人間生活 (2h)	・銅の精錬方法と用途について理解する。 ・銅の酸化物から銅を取り出すことができることを確かめる。 ・鉄やアルミニウムの精錬方法と用途について理解する。 ・さびについて理解するとともに、さびを防ぐ方法とその利用について考え、理解する。	○					
7 月	D 金属の再生利用 (1h)	・金属の再生利用 (リサイクル) の基本 ・スチール (鉄) 缶の再生利用 (リサイクル) ・アルミニウム缶の再生利用 (リサイクル)	・金属の再生利用の基本と、リサイクルマークについて理解する。 ・スチール缶の再生利用の方法について理解する。 ・アルミニウム缶の再生利用の方法を理解し、その重要性について考える。	○	○		
3 プラスチックの性質とその再利用 (6h)							

2 学 期	9 月	A プラスチックの性質と分類 (2h) ・レッツスタート! ・プラスチックの種類 <観察・実験3>プラスチックの分類	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックと金属を比較して、プラスチックの性質や種類について問題を見いだす。 ・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。 ・プラスチックを区別する方法を考え、いろいろなプラスチックの性質を調べる。 ・実験結果を基に、ポリエチレン、ポリ塩化ビニル、フェノール樹脂の性質を比べ、それぞれの特徴を考える。 	2 学 期 中 間 考 査	○	○	○			
		B プラスチックはどのようにつくるのか (3h) ・プラスチックの構造 <観察・実験4>尿素樹脂の合成 ・さまざまな機能をもつプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの原料について理解する。 ・モノマーとポリマー、重合(付加重合、縮合重合)など、プラスチックの構造について理解する。 ・尿素樹脂を合成する。 ・さまざまな機能をもつプラスチックが開発、利用されていることを知り、それらと人間生活との関わりについて考える。 		○		○			
		C プラスチックの再生利用 (1h) ・プラスチックの再生利用(リサイクル)の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。 		○		○			
		章末 (1h) ・学習内容の整理 ・章末確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・2編1章で学習した内容を振り返り、整理する。 ・材料とその再利用について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。 		○					
1 学 期	6 月	2編 物質の科学 2章 衣料と食品 (14h) 1 衣料の科学 (5h)			1 学 期 期 末 考 査	○	○	○		
		A 繊維の種類と性質 (2h) ・レッツスタート! ・繊維の種類 ・繊維を見分ける ・染色のしくみ <観察・実験1>多織交織布を用いて繊維を見分ける ・燃え方と酸やアルカリとの反応	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりで繊維を利用している物を探し、繊維にはどのような種類があるかに問題を見いだす。 ・繊維の種類とそれぞれの用途について理解する。 ・染色の仕組みを理解する。 ・多織交織布を用いた繊維の燃焼試験、染色試験、酸やアルカリとの反応実験などから、それぞれの繊維の特徴を理解する。 ・多織交織布の実験結果を基に、繊維を見分ける。 	○					○	○
		B 生物からつくられる天然繊維 (1h) ・植物繊維 ・動物繊維 ・レッツチャレンジ!	<ul style="list-style-type: none"> ・植物繊維がセルロースから、動物繊維がタンパク質からできていることを理解する。 ・さまざまな天然繊維の特徴と用途について理解し、それぞれがなぜその用途で利用されているのかを考える。 	○						○

	7月	C 石油からつくられる合成繊維 (2h) ・石油からつくられる合成繊維	・合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。また、さまざまな合成繊維のモノマーとポリマー、性質と用途について知る。		○ ○		
		・再生繊維・半合成繊維 ＜観察・実験 2＞ナイロン 66 の合成	・再生繊維や半合成繊維の原料と用途について理解する。 ・ナイロン 66 を合成する。				
2 食品の科学 (8h)							
2 学期	9月	A 体に必要な栄養素 (2h) ・レッツスタート！ ・エネルギーとカロリー カロリとは何だろう ＜観察・実験 3＞ピーナッツの熱量を測定しよう ・無機質（ミネラル）とビタミン ・三大栄養素はどのようにして体内に取り込まれるのだろうか	・ふだんの食事にはどのような栄養が含まれているかを考え、体に必要な栄養素について問題を見いだす。 ・栄養素やカロリーについて理解する。 ・ピーナッツの熱量を測定し、脂質は熱量が大きいことを確かめる。 ・無機質とビタミンのはたらきやそれらが含まれる食品について理解する。 ・三大栄養素の体内への取り込まれ方について理解する。	1 学期 期末 考査	○	○	
		B 脂質の性質 (2h) ・油脂の構造と性質 ・油脂の分解	・油脂の構造と性質について理解する。 ・エステルの加水分解と油脂のけん化について理解する。				
		C 炭水化物の性質 (2h) ・デンプンの分子と検出 ・炭水化物の種類 ・マルトースやグルコースの検出 ＜観察・実験 4＞デンプンの消化を追跡しよう	・デンプンは多数のグルコースが連なった高分子化合物であること、ヨウ素デンプン反応で検出されることを理解する。 ・炭水化物は糖類ともよばれ、単糖類、二糖類、多糖類に分類されることを理解する。 ・マルトースやグルコースはフェーリング液の還元反応で確認されることを理解する。 ・デンプンの消化の進行を、ヨウ素デンプン反応やフェーリング液の還元反応で確かめる。				
		D タンパク質の性質 (2h) ・タンパク質の構造とはたらき ・アミノ酸の構造とペプチド結合 ・タンパク質の検出 ・タンパク質の変性 ＜観察・実験 5＞豆腐をつくろう	・タンパク質は多数のアミノ酸分子が結合してできていることや、必須アミノ酸について理解する。 ・アミノ酸はペプチド結合で縮合することを理解する。 ・タンパク質はビウレット反応やキサントプロテイン反応で検出できることを理解する。 ・タンパク質の変性について理解する。 ・豆腐をつくる。				
	章末 (1h) ・学習内容の整理	・2編2章で学習した内容を振り返り、整理する。	2 学期 中間 考査	○		○	

		・章末確認テスト	・衣料と食品について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。						
2 学 期	10 月	3編 光や熱の科学							
		1章 光の性質とその利用 (14h)							
		1 光の進み方とその基本的な性質 (7h)							
		A 光の進み方とその見え方 (2h) ・レッツスタート！ ・境界面 (水面) における光の進み方 (反射・屈折) ・透明なものが見える理由 ・屈折角が 90° になる境界面 (全反射)	<ul style="list-style-type: none"> ・プールや海で水深が実際よりも浅く見えることがあることを想起し、物質の境界面での光の進み方について問題を見いだす。 ・異なる物質の境界面で光が反射、屈折するときの法則を理解する。 ・透明なものが見える理由について理解する。 ・全反射について理解する。 			2 学 期 中 間 考 査	○	○	
		B 光の波としての性質① (3h) ・光の分散とスペクトル ・光が分散するのはなぜだろうか ・偏光とは ・偏光の応用 <観察・実験 1>偏光板を用いた物体のひずみの観察	<ul style="list-style-type: none"> ・光の分散とスペクトルについて理解する。 ・光の波長とスペクトルとの関係について理解する。 ・偏光について理解する。 ・偏光板を用いて物体のひずみを観察し、それを応用してペットボトルの品質管理などが行われていることを知る。 				○	○	○
	C 光の波としての性質② (2h) ・波の回折と光の回折 ・波の干渉と光の干渉 ・ヤングの実験	<ul style="list-style-type: none"> ・光は、回折と干渉という波特有の性質をもつことを理解する。 ・光が回折と干渉という波特有の性質をもつことを確かめたヤングの実験について知る。 			○				
	2 目に見える光と色の見え方 (3h)								
	A さまざまなスペクトル (2h) ・レッツスタート！ <観察・実験 2>光のスペクトルの観察	<ul style="list-style-type: none"> ・白熱電球と電球色蛍光灯の写真を基に、光源によって光のスペクトルはどのように違うかについて問題を見いだす。 ・簡易分光器を通して、さまざまな光源のスペクトルを観察し、光源によってスペクトルに違いがあることを捉える。 			2 学 期 期 末 考 査		○	○	
	B 光の3原色と色 (1h) ・光の3原色と人の視覚 ・物体の色を決めるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の色がどのようにして生じているかについて、光の3原色や人の視覚と関連付けて理解する。 ・物体の色は何によって決まるのかを考え、物体から目に届く光には透過光と反射光があることを理解する。 				○			
	3 目に見えない光とその利用 (3h)								
A 電磁波の利用① (2h) ・レッツスタート！	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光をプリズムで分散させてスクリーンに当てたときの現象を基に、見えない光の 				○		○		

		<ul style="list-style-type: none"> 電磁波の種類と性質 赤外線とその利用 <観察・実験3>赤外線の観察	なかまについて問題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> 電磁波という広い概念で、可視光線や赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。 テレビなどのリモコンを使って、赤外線を調べる。 赤外線の性質とその利用について理解を深める。 ブラックライトを当てて、紫外線に反応する物質を調べる。 紫外線の性質とその利用について理解を深める。 	2 学 期 期 末 考 査			
		B 電磁波の利用② (1h) <ul style="list-style-type: none"> 電波とその利用 X線とガンマ線 	<ul style="list-style-type: none"> 電波やX線、ガンマ線の性質とその利用について理解を深める。 放射線の一種としてのX線やガンマ線の生物への影響について理解するとともに、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。 		○		○
		章末 (1h) <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の整理 章末確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 3編1章で学習した内容を振り返り、整理する。 光の性質とその利用について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。 		○		
2 学 期	10 月	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用 (14h) 1 熱とは何か (7h)					
		A 原子や分子の熱運動 (2h) <ul style="list-style-type: none"> レッツスタート! ブラウン運動と熱運動 <観察・実験1>ブラウン運動の観察 <ul style="list-style-type: none"> 熱運動による現象 温度の表し方 	<ul style="list-style-type: none"> 温度による水の状態変化を基に、温度による物質の状態変化と原子や分子の動きとの関係について問題を見いだす。 ブラウン運動を観察する。 原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。 	2 学 期 中 間 考 査	○	○	
		B 熱容量と比熱 (3h) <ul style="list-style-type: none"> 温度の異なる物体間での熱の移動 物体の温度変化に必要な熱量 <観察・実験2>物質の温まりやすさを調べよう <ul style="list-style-type: none"> 物質による温まりやすさ (比熱) 水の比熱と人間生活 熱量の保存 	<ul style="list-style-type: none"> 熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 水と鉄を用いて物質の温まりやすさを調べる。 実験結果を基に、物質の種類や質量によって温まりやすさに違いがあることを捉え、比熱について理解する。 水の比熱が大きいことと人間生活との関わりについての理解を深める。 熱量の保存について理解する。 		○	○	○
		C 熱の伝わり方 (2h) <ul style="list-style-type: none"> 熱伝導 対流 放射 	<ul style="list-style-type: none"> 熱の伝わり方には、熱伝導、対流、放射があることを理解する。 魔法瓶の仕組みなど、熱伝導、対流、放射と人間生活との関わりについて考え、理解 		○		○

		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での断熱の工夫（魔法びんのしくみ） レッツチャレンジ！ 	を深める。					
		2 エネルギーの利用と私たちの暮らし (6h)						
	11月	A 力学的エネルギーと熱エネルギー (2h) <ul style="list-style-type: none"> レッツスタート！ 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の車体から火花が出ている様子の写真を基に、力学的エネルギーから熱エネルギーへの変化について問題を見いだす。 力学的エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解し、熱現象とエネルギーとの関係について考える。 力学的エネルギーが熱エネルギーに変わることを実験を通して確かめる。 	2学期期末考査	○	○		
		<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギーから熱エネルギーへ <観察・実験3> 力学的エネルギーによる熱の発生の確認						
		B ほかのエネルギーから熱エネルギーへ (2h) <ul style="list-style-type: none"> 化学エネルギーから熱エネルギーへ <観察・実験4> 発熱反応と吸熱反応の確認 <ul style="list-style-type: none"> 電気エネルギーから熱エネルギーへ 	<ul style="list-style-type: none"> 化学エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 発熱反応と吸熱反応の実験を行い、化学変化による発熱と吸熱を確かめる。 電気エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 		○	○		
		C 熱エネルギーから仕事への変換 (1h) <ul style="list-style-type: none"> 熱エネルギーから運動エネルギーへ 熱機関と熱効率 可逆変化と不可逆変化 レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> 熱機関と熱効率について理解するとともに、熱機関の熱効率とエネルギーの有効利用について考える。 熱現象の可逆変化と不可逆変化について理解する。 		○			
		D エネルギーの有効利用 (1h) <ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効利用 太陽エネルギーの利用 レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの有効利用に興味をもち、さまざまな事例を基に理解を深める。 太陽エネルギーの特徴について考え、太陽光発電などへの理解を深める。 地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について調べ、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。 		○			○
		章末 (1h) <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の整理 章末確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 3編2章で学習した内容を振り返り、整理する。 熱の性質とその利用について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。 		○			
2学期	11月	4編 宇宙や地球の科学						
		1章 太陽と地球 (14h)						
		1 太陽と月がもたらすリズム (5h)						
		A 太陽と月がつくる暦 (2h) <ul style="list-style-type: none"> レッツスタート！ 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 月の見え方とひと月、暦の関係を理解する。 	2学期期末考査	○		○	
		<ul style="list-style-type: none"> 太陽がつくる1日、そして1年 月がつくるひと月 レッツチャレンジ！ 						

12月	B 海水面の変動と潮の満ち干をもたらす力 (3h) <実習 1>潮位の変化を調べよう ・潮の満ち干と月 ・潮位の変動と周期性 ・潮位の変動と災害 ・レッツチャレンジ!	・潮位の変化による現象を知り、どのようにして起きるのかに興味をもつ。 ・潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する。 ・潮の満ち干と月の引力との関係について考え、理解する。 ・太陽、地球、月の位置関係と潮位の変動との関係について考え、潮位の変動の周期性について理解する。 ・大潮と高潮が重なると、災害をもたらすことがあることを理解する。	査	○ ○	○	○
	2 太陽が動かす大気と水 (8h)					
3学期	A 太陽の放射エネルギー (3h) ・レッツスタート! ・太陽のエネルギー源 ・太陽活動の変動 ・太陽定数と地球が受け取る太陽の放射エネルギー <観察・実験 1>手鏡での集光実験 ・太陽の放射エネルギーの利用 ・地球に入る熱、出ていく熱 ・温室効果 ・レッツチャレンジ!	・太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る。 ・太陽の光エネルギーを利用した太陽光発電の利点と課題について考え、理解する。 ・太陽放射の熱収支について理解する。 ・温室効果ガスと温室効果の仕組みを理解し、地球温暖化について考える。	2 学期 期 末 考 査	○ ○	○	
	B 太陽がつくる大気と海洋の循環 (2h) ・大気の大循環 ・風がつくる海洋の循環 ・大気と風がつくる気候 ・レッツチャレンジ!	・大気の大循環について理解する。 ・緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環を理解する。 ・海流は風によって生じることを理解する。 ・大気と海水の移動によって低緯度の熱を高緯度に運び、その結果として気候が形成されることを理解する。	3 学期 期 末 考 査	○		○
1月	C 1年を通じた大気の大循環と気象災害 (3h) ・地球の公転による四季の変化 ・季節による世界の気圧分布と日本への影響 ・停滞前線のつくる長雨 ・台風 <実習 2>熱帯低気圧が発生する場所と移動経路を考えよう ・集中豪雨	・地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。 ・気圧分布や大気の流れと各季節の気象との関係を理解する。 ・熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。 ・台風や集中豪雨などによって災害が起こることがあることを理解する。		○	○	

		章末 (1h) ・学習内容の整理 ・章末確認テスト	・4編1章で学習した内容を振り返り、整理する。 ・太陽と地球について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。		○		
2 学 期	11 月	4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害 (14h) 1 身近な自然景観の成り立ち (5h)					
		A 移り変わる地球の景観 (1h) ・レッツスタート！ ・プレート運動と地表の景観 ・長い時間をかけて景観は移り変わる	・ヒマラヤ山脈でとれたアンモナイトの写真を基に、地球規模の地形の成り立ちについて問題を見いだす。 ・プレート運動により、プレート境界に海嶺や海溝、山脈などができることを理解する。 ・地表の景観は常に変化し続けており、長い時間をかけて少しずつ移り変わることについての理解を深める。	2 学 期 期 末 考 査	○		
		B 山地や低地の成り立ち (1h) ・断層がつくる山地と低地 ・断層地形はかつての地震の痕跡 ・レッツチャレンジ！	・断層運動によって山地と低地ができることを理解する。 ・断層運動によってできた地形が見られる場所は、過去に地震が繰り返し発生した場所であることを理解し、防災のための取り組みの必要性に気づく。		○	○	
	C 火山がつくる景観 (1h) ・マグマの性質と火山の姿 ・山脈も火山も地球内部の熱がもたらす ・レッツチャレンジ！	・マグマの性質とそれによる火山の姿や噴火の形態について理解する。 ・山脈や火山をもたらす原動力は地球内部の熱であり、その熱が地表に放出される過程でプレートが動いていることを理解する。	○				
	12 月	D 太陽のエネルギーがつくる景観 (2h) ・地表は徐々に崩れていく <観察・実験 1>斜面崩壊や土石流のモデル実験 ・流水が地表にもたらす作用 ・海水や氷河、風も景観をつくる ・レッツチャレンジ！	・地表は徐々に風化してもろくなり、地すべりや土砂崩れ、土石流などが起こることがあることを理解する。 ・斜面崩壊や土石流のモデル実験を行う。 ・流水の三作用について理解する。 ・太陽のエネルギーがもたらすさまざまな地形や景観を理解する。	○	○	○	
		2 自然災害と防災 (8h)					
		A 自然災害とは (1h) ・レッツスタート！ ・自然災害とは ・自然災害は対策によって軽減できる ・被災後も困難は続く	・自然災害と人間生活について考え、自然災害やそれらに対する対策について問題を見いだす。 ・自然災害と自然現象との違いについて理解する。 ・自然災害と人間生活との関わりについての理解を深める。	2 学 期 期 末 考 査	○		

		<ul style="list-style-type: none"> ・レッツチャレンジ！ 		査			
		<p>B 地震による災害 (2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレート境界で起こる巨大地震と東北地方太平洋沖地震 ・海溝で起こるプレート境界の地震はときに連動する ・規模のわりに被害の大きい内陸の地震 ・地震災害と防災 <p><観察・実験 2>液状化のモデル実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレート境界で起こる地震と内陸で起こる地震のメカニズムと特徴について理解する。 ・液状化のモデル実験を行う。 ・地震災害への対策の必要性を理解し、防災・減災のための具体的な取り組みについて知り、自分たちにできることはあるか考える。 		○	○	○
3 学 期	1 月	<p>C 火山による災害 (1h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな噴火のようすと火山災害 ・噴火の監視とハザードマップ <ul style="list-style-type: none"> ・レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山の噴火によるさまざまな災害について理解する。 ・火山の噴火に対する防災・減災のための取り組みについて知り、自分たちにできることはあるか考える。 	3 学 期 期 末 考 査	○		
		<p>D 気象災害・土砂災害と防災 (2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨、洪水、土砂災害 ・暴風、雷、大雪など <p><実習 1>水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象災害を軽減する対策 <ul style="list-style-type: none"> ・レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風や低気圧などの大雨によるさまざまな災害について理解する。 ・暴風や雷、大雪などによっても気象災害が起こることを知る。 ・ハザードマップと地形図を比較して水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べ、それらが起こりやすい地形の特徴を捉える。 ・気象災害に対する防災・減災のための取り組みや課題について知り、自分たちにできることはあるか考える。 		○	○	
		<p>E 自然災害との付き合い方 (2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報はどのようにしてできるのか ・地球を監視する「目」の発達 ・人々に行動を促す注意報と警報 <ul style="list-style-type: none"> ・火山の噴火は直前に予知できることがある ・地震波や津波の到達に先回りするシステム ・自然災害に対する取り組みの整理 ・自然災害から生命や社会を守るために <ul style="list-style-type: none"> ・レッツチャレンジ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害を軽減するために自分たちにできることについて問題を見いだす。 ・天気予報の仕組みや気象観測の発達について理解する。 ・気象に関する注意報と警報について理解し、それらが発令された際の行動について考える。 ・火山の噴火を予測したり、地震波や津波の到達に先回りしたりするためのシステムについて知る。 ・自然災害に対する防災・減災のための取り組みへの科学技術の重要性と限界について理解し、自分たちにできることを考える。 		○	○	○
		<p>章末 (1h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の整理 ・章末確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・4編2章で学習した内容を振り返り、整理する。 ・自然景観と自然災害について学習した内容を、「章末確認テスト」で確かめる。 		○		

3 学 期	2 月	5編 課題研究 (12h)				
		課題や仮説の設定, 検証計画の立案 (2h)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り, 興味や関心をもったことやもっと調べてみたいことがあるか考える。 自然や科学技術と人間生活との関わりについて, 調べる課題を設定する。 設定した課題を基に, 仮説や調べる計画を立てる。 	3 学 期 期 末 考 査		○
	観察・実験などの実施, 結果の整理と考察 (6h)	<ul style="list-style-type: none"> 計画を基に, 観察・実験や資料調査などを行う。 得られた結果を基に考察し, 結論を導く。 	○		○	○
3 月	レポートの作成, 発表, 振り返り (4h)	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを基に, レポートを作成し, 互いに発表し合う。 友達との議論や友達の発表内容も参考にしながら, 課題研究の内容や進め方などを振り返る。 	○		○	○

理科	科目名	生物基礎	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価基準及び方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき評価する。 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」についてはテストに基づき、「主体的に学習に取り組む態度」は提出物等で判断する。3観点については重み付けせず、等しくみていく。 			
使用教科書及び教材	第一学習社 「高等学校 新生物基礎」 授業に合わせて作成した 「プリント」			
その他留意点	進学希望者に対しては参考書、進学先の傾向問題、進路の講座等個別に指導を行う。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	・生物の共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物にみられる共通性と由来 ・細胞構造の共通性 	
5	・生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーと代謝 ・代謝とATP ・代謝と酵素 ・光合成と呼吸 	中間考査
6	・遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・染色体・DNA ・DNAの構造 ・DNAの複製と分配 	
7	・遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の構造と働き ・遺伝子の発現とタンパク質の合成 ・細胞と遺伝子の働き 	期末考査
8			
9	・からだの調節と情報の伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性と情報の伝達 ・神経系 ・自律神経系の働き ・ホルモンの働き ・血糖濃度の調節 ・体温の調節 ・からだの調節と血液の働き 	
10	・免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体からからだを守るしくみ ・自然免疫 ・獲得免疫のしくみ ・獲得免疫の特徴 	中間考査
11	・免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫と疾病 ・免疫と医療 	
12	・植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな植生 ・植物と環境 	期末考査

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生の遷移と環境 ・ 植生の破壊と遷移 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生と遷移 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遷移とバイオーム ・ 世界のバイオーム ・ 日本のバイオーム 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系とその保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系 ・ 生物どうしの関係 ・ 生物どうしの関係と種の多様性 ・ 生態系のバランスと攪乱 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系とその保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間活動による生物の持ち込み ・ 生息地の破壊 ・ 生息地の分断化 ・ 生態系の保全とその意義 	学年末考査

普通科	科目名	化学基礎	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	(1)自然に関する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。 (2)自然の事物・現象についての理解を深める。			
評価基準及び方法	授業に取り組む姿勢 ノート 定期テスト			
使用教科書及び教材	高等学校 改訂新化学基礎 (183 第一 化基/712)			
その他留意点	化学を含め、理科では推察、考察することが大事である。授業をただ聞くのではなく、常に自分の知識と照らし合わせ、自ら考えながら授業に臨んでほしい。			

学習計画

月	単元名	学習内容	備考
4	第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の成分と分離(1) ②物質の成分と分離(2) ③化合物・単体と構成元素	混合物から純物質を分離、生成する方法や純物質は化合物と単体に分類されること、同じ単体でも性質が異なったものが存在することを理解させる。また、化合物や単体を構成する元素の検出法を理解させる。	
5	④成分元素の確認 ⑤原子のなりたち ⑥同位体とその利用 ⑦原子の電子配置 ⑧元素の周期律と周期表	物質は、元素に対応する基本粒子である原子からできていることや、原子の構成、同位体、電子配置を理解させる。	
6	第I章 物質の構成 第2節 物質と化学結合 ①イオン ②イオンからできる物質(1) ③イオンからできる物質(2) ④共有結合	物質の構成粒子である原子、イオン、分子のうち、イオンや分子について、原子からの生成や表し方を理解させる。	
7	⑤分子の構造と極性 ⑥分子からできる物質(1) ⑦分子からできる物質(2)	物質は、イオンからできる物質、分子からできる物質、原子からできる物質などに分類されることや、各々の物質の性質などを理解さ	

	⑧共有結晶 ⑨金属結合 ⑩金属の利用	せる。さらに、物質が何に利用されているかを認識させる。	
9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質質量(1) ④物質質量(2)	原子量の概念を理解させ、分子量や式量の扱いを学習させる。さらに、物質の量を表す方法としての物質質量の定義を理解させ、その扱いに慣れさせる。	
10	⑤溶解と濃度 ⑥溶解度 ⑦化学変化と化学反応式	質量パーセント濃度、モル濃度、溶解度など、溶液の濃度の定義を理解させる。	
11	⑧化学反応式と量的関係(1) ⑨化学反応式と量的関係(2) ⑩化学反応における諸法則	化学反応式のつくり方、化学反応式と量的関係を理解させる。また、化学反応における諸法則を確認させる。	
12	発展 反応熱と熱化学方程式 ①化学変化と熱の出入り ②ヘスの法則	発生または吸収する熱量の総和は、反応の最初の状態と最後の状態によって決まり、反応経路に無関係であるというヘスの反応を理解させる。また、ヘスの法則を利用して、測定困難な反応熱をすでに測定されている他の反応熱を用いて求められることを理解させる。	
1	第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と水素イオン濃度 ③水素イオン指数	化学反応には、水素イオンの授受に関連した酸と塩基の反応があることを理解させる。また、酸性や塩基性の強弱を水素イオン濃度によって比較できることや、中和反応の量的関係も理解させる。	
2	④中和と塩 ⑤中和の量的関係 ⑥中和滴定	化学反応には、電子の授受に関連した酸化還元反応があることや、酸化剤・還元剤の働き、金属のイオン化傾向の使い方を理解させる。	
3	⑦中和滴定と pH の変化	中和滴定曲線を理解させる。さらに、中和点の決定に用いる酸・塩基の指示薬の選択ができるようになる。	

体 育 科	科目名	保 健	担当者	真島・伊計・仲本
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第 2 学年	履修単位	1 単位	
概要及び目標	○ 健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育て、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
評価基準及び方法	○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに評価基準を作成し、定期考査、小テスト、課題学習・新聞づくり、PowerPoint の作成、実習または提出物等を中心に、総合的に評価する。 ○ 学期毎：A・B・C評価 年度末（総合評価）：5段階評価			
使用教科書及び教材	○ 教科書・・・（株）大修館書店「現代高等保健体育」 ○ ノート・・・（株）大修館書店「現代高等保健体育ノート」			
その他留意点	○ ICTの活用及び実験や実習も取り入れる。課題学習により、自分の意見をまとめ発表できるようにする。			

学習計画

週	単元名	学習内容	備考
1	オリエンテーション		
2	ライフステージと健康	1. ライフステージと死亡や病気 2. 各ライフステージにおける健康課題とその支援	
3	思春期と健康	1. 思春期の体と健康 2. 思春期の心と健康	
4~5	性意識と性行動の選択	1. 性意識とその尊重 2. 性に関する情報と性行動	
6~7	妊娠・出産と健康	1. 受精・妊娠・出産 2. 母子保健サービスの活用	
8~9	避妊法と人工妊娠中絶	1. 家族計画の意義と避妊法 2. 人工妊娠中絶	
10~11	結婚生活と健康	1. 結婚生活の基盤となる心身の発達 2. 結婚生活と家族の健康	
12~13	中高年期と健康	1. 加齢による変化と健康 2. 高齢者の健康を支える取り組み	
14~15	働くことと健康	1. 働くことと健康のかかわり 2. 働き方と健康問題の変化	
16~17	労働災害と健康	1. 労働災害とその要因 2. 労働災害の防止	

18	健康的な職業生活	1. 職場における取り組み 2. 仕事と生活の調和	
19～20	大気汚染と健康	1. 大気汚染の原因と健康影響 2. 大気にかかわる地球規模の問題	
21～22	水質汚濁・土壌汚染と健康	1. 水質汚濁とその健康影響 2. 土壌汚染とその健康影響 3. 大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染のかかわり	
23～24	環境と健康にかかわる対策	1. 環境汚染の防止とその対策 2. 産業廃棄物の処理と健康	
25	ごみの処理と上下水道の整備	1. ごみの処理の現状 2. 安全で良質な水の確保	
26～27	食品の安全性	1. 食品の安全性と健康 2. 食品の安全性に関する今日的課題	
28～29	食品衛生にかかわる活動	1. 食品の安全性の確保 2. 食品の安全と私たちの役割	
30	保健サービスとその活用	1. 保健行政の役割 2. 保健サービスの活用	
31	医療サービスとその活用	1. 医療の供給と医療保険 2. 医療機関と医療サービスの活用	
32	医薬品の制度とその活用	1. 医薬品の種類と使用法 2. 医薬品の副作用と安全性を守る取り組み	
33	さまざまな保健活動や社会的対策	1. 健康を支える保健活動と社会的対策 2. 保健活動や社会的対策への住民の理解	
34～35	健康に関する環境づくりと社会参加	1. 健康と環境づくり 2. 環境づくりへの社会参加と情報の活用	

体育科	科目名	体 育	担当者	我謝・仲本・伊計・大城・真島
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第2学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	選択制授業を実践することにより、生徒一人一人に運動の楽しさや喜びを深く味わわせ、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる。また、健康・安全面に留意し、各種の運動の合理的実践を通して、運動技能の向上を目指すとともに、けじめある学習活動や基本的な生活態度の育成を目指す。			
評価基準及び方法	○「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の内容をもとに各単元で評価基準を作成，出席状況等を加味し総合的に評価する。 ○相互 評 価・・・・・・・・学習カード，学習ノート，課題レポート ○教師による評価・・・・・・・・テスト，観察 ○学期毎：A・B・C評価 年度末（総合評価）：5段階評価			
使用教科書及び教材	○教科書・・・・大修館現代高等 保健体育（体育理論）			
その他留意点	○生徒の体調管理・器具や施設の安全管理を徹底する。 ○感染症対策を心掛けた授業の工夫 ○授業の自己評価や工夫改善ができるように支援する。			

学習計画

週	学習内容	備考
1~6	オリエンテーション・体育理論・集団行動・体力テスト・男女(体づくり運動)	
7~11	男子(球技：室内)・女子(水泳・陸上競技)	
12~16	男子(水泳・陸上競技)・女子(球技：室内)	
17~18	男女(体づくり運動)・体育理論	
19~24	男子(球技：屋外)女子(球技：屋内)	
25~27	男女(持久走)	
28~31	男女(武道・ダンス)	
32~35	男子(球技：屋内)女子(球技：屋外)	

芸術	科目名	音楽Ⅱ	
履修学科	全科対象・選択		
履修学年	第2学年	履修単位	2単位
概要及び目標	音楽Ⅰの学習内容を発展させ、音楽の諸活動を通して創造的な表現の能力を伸ばし、基礎的・基本的な内容を理解するとともに、音楽を愛好する心情、豊かな感性、自主的に取り組む態度を養う。		
評価基準及び方法	活動点（取り組み/頑張り点）・実技テスト・定期考査・提出物を総合的に判断し評価する。点数配分は学期毎に説明する		
使用教科書及び教材	教科書・・・教育芸術社『MOUSA2』 教材・・・楽譜・自作プリント・鑑賞ソフト（CD・DVDなど）・関連書物		
その他留意点	生徒の主体的活動に重点を置き、鑑賞・歌唱・器楽・創作の各分野をバランスよく取り入れた授業を心かける。		

学期	月	単元名	学習内容と方法	備考
一学期	4 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う喜びを感じよう ・楽典 ・歌曲に親しむ ・ピアノに親しむ 	発声や息の使い方に気をつけ、情感たっぷりにのびのある声で歌う 音楽の基礎知識をゲーム感覚で修得する 日本歌曲・イタリア歌曲・ドイツリートなど 「紅連華」を通し、片手・両手奏を体験しながらピアノ（キーボード）に親しむ。コードの活用法について知る。 より効果的な指使いについて考える	期末テスト（筆記）の実施 ピアノ（キーボード）実技テストの実施
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・三線に親しむ 	三線の特性や歴史、基本的な奏法や勘所について復習する 工工四の読み方を復習する 個々のペースにあわせて練習・他と合わせ歌う 「海の声」「島人の宝」「島唄」「涙そうそう」など	

学期	月	単元名	学習内容と方法	備考
二 学 期	9	・アンサンブルに親しむ	器楽アンサンブルに挑戦し、様々な楽器の奏法や特徴を生かし、アンサンブルを楽しむ。	実技テスト
	10	・日本の伝統音楽に親しむ	篠笛・太鼓などの鑑賞及び基本的な知識と演奏技術を知る。 「さくら」「祭の夢」他	
	11	・鑑賞	「交響曲第九」を鑑賞する。 作曲家や作曲された背景を知る。	
	12	・創作	ショートムービーに適したBGMをつくる	作品提出
三 学 期	1 2 3	・クラスコンサート	グループや個人で演奏練習し、コンサートを開く 音楽の授業における自己評価・まとめ	発表

音楽は心を育む教科です。

音楽Ⅱでは、グループ学習を取り入れ、そこで得られる

みんなと合わせる喜びや楽しみを味わって欲しいと思います。

音楽体験を通して、ともに感動を創っていきましょう！！

音楽Ⅰの授業以上に、皆さんの積極的な授業参加を期待しています。

教科名	外国語		科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	
履修学科	全学科	履修学年	第2学年	履修単位	2単位
概要及び目標	①日常的な話題について、英語で聞いたことや読んだことを理解し、表現する基礎的能力を養う。 ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
評価基準及び方法	①定期考査 ②小テスト ③提出物 ④暗唱テスト、板書発表 ⑤評価の割合・・・定期考査 7割 提出物・暗唱テスト・その他 3割 *定期考査の無届不受験は0点、後日受験は8割を目処に評価する。				
使用教科書	COMET English CommunicationⅡ (数研出版)				

学習計画

月	単元名	学習内容
4	オリエンテーション 自己紹介	
4 5	Lesson 1 Places Worth Visiting	・ダイキとエラが互いが訪れた場所（屋久島とカッパドキア）についてメールで紹介する ・want など+(人)+to-不定詞 ・行きたい場所について自分の意見を言う/相手に質問する
5 6 7	Lesson 2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer	・動物写真家 岩合光昭さんが、撮影において重要だと気づいたことや撮影のコツを語る ・疑問詞+to-不定詞 ・好きな写真について発表する/感想を伝え合う
8 9	Lesson 3 The Haka	・ニュージーランドからの留学生マイアが、マオリ族の伝統舞踊「ハカ」について発表する ・分詞
9 10 11	Lesson 4 Digital Detox	・ハルカとダイキがデジタル機器との関わり方に関する記事を読み、意見を交換する ・if 節・疑問詞節 ・意見交換を行う/相手の意見を話したり書いたりする
12 1 2	Lesson 5 Goal Setting	・目標を達成するために効果的な目標設定のしかたを紹介 ・seem+to-不定詞 ・自分の目標について考えを整理し発表する/感想を伝え合う
2 3	Lesson 6 The High School Hair Salon	・高校生が運営する美容室で働く生徒たちへのインタビュー ・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について情報や考えを整理し発表する意見を聞いて質問や感想を伝え合う。

沖縄県立浦添工業高等学校 令和5年度シラバス

英語科	科目名	実践英語 A		
履修学科	全 学 科 選 択 科 目			
履修学年	第2学年	履修単位	2 単位	
概要及び目標	多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。			
評価基準 及び方法	1. 定期考査 2. 小テスト 3. 提出物 評価は3観点についてA・B・Cで評価し、その評価から総合的に5段階で評定 *定期考査の無届不受験は0点、後日受験は8割を目処に評価する			
使用教科書 副教材など	NEW FAVORITE English Logic and Expression I (論 I 701) NEW FAVORITE English Logic and Expression I WORKBOOKJ (東京書籍) プレップイングリッシュ [4訂版]			

学習計画

学期	単元名	時数	言語表現	主領域
1学期	オリエンテーション Lesson1 初めての食事	9	褒める 勧める 断る ・I like (love/adore)～ ・Would you like ~?/ ・Thank you, but ~ / I'm sorry, but ~ 未来表現, 可算名詞・不可算名詞, 受動態	話すこと(やり取り)
	プレップイングリッシュ 1～6	5	・this / that ・人称代名詞① ・人称代名詞② ・形容詞と副詞 ・be 動詞 ・be 動詞の疑問文・否定文	文法定着 小テスト その他活動
	Lesson2 道に迷う	8	提案 依頼 道順説明 ・Let's ~ / How about ~ ・Could you ~ ・Go down ~ / You should take ~ Could you ...?や命令文など	話すこと(やり取り)
	Lesson3 人物紹介	8	紹介 注意を引く ・Mr. ~ is ... ・Did you know ~ / Why~ 現在完了形と過去形, to 不定詞と動名詞	話すこと(発表)
2学期	プレップイングリッシュ 7～11	5	・前置詞 ・There is (are) ~ ・一般動詞の肯定文・疑問文・否定文 ・一般動詞の肯定文(3人称単数)	文法定着 小テスト その他活動
	Lesson4 体調が悪い	8	体調 指示 アドバイス ・I have a fever(headache / sore throat). ・You should take a rest (see a doctor). 冠詞・人称代名詞, should had better	話すこと(やり取り)
	プレップイングリッシュ 12～17	5	・一般動詞の疑問文・否定文-3人称単数 ・命令文① ・命令文② ・be 動詞の過去形 ・be 動詞の過去形の疑問文・否定文 ・一般動詞の過去形-規則動詞	文法定着 小テスト その他活動

	Lesson5 買い物	8	描写 相づち ・They are round and heavy. ・I'm afraid not. 現在形と現在進行形, 現在完了形と過去形	話すこと(やり取り)
	プレップイングリッシュ 18～23	4	・一般動詞の過去形・不規則動詞 一般動詞の過去形の否定文 ・一般動詞の過去形の疑問文 疑問詞①Wh-疑問文 ・進行形の作り方 進行形の否定文	文法定着 小テスト その他活動
3学期	Lesson6 行ってみたい場所	8	希望 理由 ・I would like to visit ~ ・First, ~ . Second, ~. Third, ~. 後置修飾, to 不定詞と動名詞	書くこと
	プレップイングリッシュ 24～30	2	・進行形の疑問文 未来を表す will ・未来を表す be going to 助動詞 can / must / may ① ・be able to / have to ・Will you~? / Shall I ~ ? / Shall we ~?	文法定着 小テスト その他活動

学期	月	単元タイトル (題材)	学習のねらい	考查範囲	評価の観点のポイント		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	英語で表現するには	[題材内容] 主語、動詞、文構造、 疑問文と否定文、日本語の言い換え、品詞、 句と節	第1学期 中間考查	[知識] 主語、動詞、 文構造、疑問文と否定 文、品詞、句と節につ いて理解している。 [技能] 英語で表現す るときに、まずはやさ しい日本語に言い換 えたり、発想自体を変 えたりするなどの技 能を身につけている。		
	5	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	[題材内容] 留学先での初めての 食事の場面 [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (やり取 り) ○書くこと [言語の働き] 褒める、勧める、断る [文法] 未来表現、可算名詞・ 不可算名詞、受動態		[知識] 褒める、勧め る、断るときの表現の 形・意味・用法を理解 している。 [技能] 学んだ知識を 用いて、褒める、勧め る、断るときの表現を 適切に運用し、自分の 考えや気持ちなどを 表現する基本的な技 能を身につけている。		
	6	Unit 1 Lesson 2 道に迷う	[題材内容] 道に迷った・道を案内 する場面 [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (やり取 り) ○書くこと [言語の働き] 提案する、依頼する、 道順を説明する [文法] (Could you ...?や命 令文など)	第1学期 期末考查	[知識] 提案する、依 頼する、道順を説明す るときの表現の形・意 味・用法を理解してい る。 [技能] 学んだ知識を 用いて、提案する、依 頼する、道順を説明す るときの表現を適切 に運用し、自分の考え や気持ちなどを表現 する基本的な技能を 身につけている。	相手の立場や状況を 理解し、適切な表現を 用いて、物事を提案し たり、依頼したりして いる。また、相手にわ かりやすく道順を説 明するなどして、自分 の考えや気持ちなど を表現している。	自身の活動を振り 返りながら、適切 な表現を用いて、 物事を提案した り、依頼したり、 相手にわかりやす く道順を説明する ために、繰り返し 活動に取り組も うとしている。また、 自分の考えや気持 ちなどを表現しよ うとしている。

7	Unit 1 Lesson 3 人物紹介	<p>【題材内容】 身近な人を紹介するスピーチ</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (発表) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 身近な人を紹介する、注意を引く</p> <p>【文法】 現在完了形と過去形, to 不定詞と動名詞</p>	第 2 学期 中間考査	<p>【知識】 身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意を引くときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて、身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意を引くときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って、身近な人を紹介したり、テーマに関連性を持たせたりしている。また、聞き手や読み手の注意を引いたりして、自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って、身近な人を紹介したり、テーマに関連性を持たせたりするために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、聞き手や読み手の注意を引いたりして、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。	
	7	Unit 1 Lesson 4 体調が悪い	<p>【題材内容】 体調をめぐるやり取りの場面</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをする</p> <p>【文法】 冠詞・人称代名詞, should had better</p>		<p>【知識】 体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをするときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて、体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをするときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、現在の体調・具体的な症状などを伝えている。また、相手の立場や状況を理解し、具体的な返答がしやすい形で、体調を尋ねたり、指示・アドバイスを提示したりして、自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返り、適切な表現を用いて、現在の体調・具体的な症状などを伝えるために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、相手の立場や状況を理解し、具体的な返答がしやすい形で、体調を尋ねたり、指示・アドバイスをしたりして、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
	9	Unit 1 Lesson 5 買い物	<p>【題材内容】 買い物の場面</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 描写する、相づちを打つ</p> <p>【文法】 現在形と現在進行形, 現在完了形と過去形</p>	第 2 学期 中間考査 第 2 学期 期末考査	<p>【知識】 描写する、相づちを打つときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて、描写する、相づちを打つときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、わかりやすく物事を描写している。また、文脈に応じて、適切な表現で相づちを打ったりして、自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、わかりやすく物事を描写するために繰り返し活動に取り組もうとしている。また、文脈に応じて、適切な表現で相づちを打ったりして、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
6 6 7			学期中間 考査				

		<p>Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所</p>	<p>【題材内容】 行ってみたい場所についてのライティング</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ○話すこと ◎書くこと</p> <p>【言語の働き】 希望を述べる, 理由を述べる</p> <p>【文法】 後置修飾, to 不定詞と動名詞</p>		<p>[知識] 希望を述べる, 理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 学んだ知識を用いて, 希望を述べる, 理由を述べるときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>相手の立場や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的かつ一貫した繋がりを持たせ希望を述べている。また, 相手が納得できるよう論理を一貫させて理由を述べたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>	<p>自身の活動を振り返りながら, 相手の立場や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的かつ一貫した繋がりを持たせ希望を述べるために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手が納得できるよう論理を一貫させて理由を述べたりして, 自分の言葉で考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>
--	--	---	--	--	--	---	---

	Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる	[題材内容] イベントに誘ったり、誘われたりする場面 [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと [言語の働き] 誘う、誘いを受ける、誘いを断る [文法] 未来表現	[知識] 誘う、誘いを受ける、誘いを断るときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて、誘う、誘いを受ける、誘いを断るときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、計画などの魅力を伝えて誘ったり、計画などに対する期待感を伝えたりしている。また、誘いを受けたり、相手に配慮した形で理由を述べて誘いを断ったりして、自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、計画などの魅力を伝えて誘ったり、計画などに対する期待感を伝えたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また、誘いを受けたり、相手に配慮した形で理由を述べて誘いを断ったりして、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
			2 学期中間考査		
			2 学期中間考査		
			第 2 学期中間考査		
			2 学期中間考査		

2	6 7 7 9	Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	<p>【題材内容】 スクールカウンセラーとやり取りをする場面</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案する, お礼や感謝を伝える</p> <p>【文法】 (how や why を用いた文)</p>		<p>【知識】 状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案をする, お礼や感謝を伝えるなどの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて, 状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案をする, お礼や感謝を伝えるなどの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 状況を整理して説明したり, 手助けを申し出たりしている。また, 助言・提案をしたり, お礼や感謝を伝えたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>	<p>自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 状況を整理して説明したり, 手助けを申し出たり, 助言・提案をしたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, お礼や感謝を伝えたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>
---	------------------	-------------------------------------	--	--	--	---	---

		<p>Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介</p>	<p>[題材内容] 自分のお気に入りを紹介するスピーチ [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (発表) ○書くこと [言語の働き] 映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介したりする、感想や批評を述べる [文法] 前置修飾, 後置修飾</p>	<p>2 学期中間 間 考 査</p> <p>2 学期中 間 考 査</p> <p>第 2 学期 中 間 考 査</p> <p>2 学期中 間 考 査</p> <p>第 2 学期 中 間 考 査</p> <p>第 2 学期 中 間 考 査</p> <p>2 学期中 間 考 査</p> <p>第 2 学期 中 間 考 査</p>	<p>[知識] 映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて、映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>相手の知識や発言を理解し、適切な表現を用いて、あらすじなどを順序だてて要約して紹介したり、内容に関連する感想や批評を述べたりしている。また、聞き手や読み手にわかりやすく、自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>	<p>自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、あらすじなどを順序だてて要約して紹介したり、内容に関連する感想や批評を述べたりするために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを、聞き手や読み手にわかりやすく表現しようとしている。</p>
--	--	---	--	--	---	---	---

	Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	<p>【題材内容】 待ち合わせに遅刻したときの場面</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 相手に謝る, 相手を許す, 相手を励ます</p> <p>【文法】 使役動詞, to 不定詞と動名詞</p>	<p>2 学期中間 中間 第 2 学期 中間 第 2 学期 中間 第 2 学期 中間 第 2 学期 期 末 第 2 学期 中 間 第 2 学期 期 末 第 2 学期 中 間 第 2 学期 期 末</p>	<p>【知識】 謝る, 許す, 励ますときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて, 謝る, 許す, 励ますときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>相手の状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的な内容や理由を添えて謝罪の気持ちを伝えている。また, 相手を許す気持ちを伝えたり, 相手を励ましたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>	<p>自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 具体的な内容や理由を添えて謝罪の気持ちを伝えるために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手を許す気持ちを伝えたり, 相手を励ましたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>
7 9 9 10	Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッション	<p>【題材内容】 家庭内で身近な社会問題についてディスカッションする場面</p> <p>【領域】 (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>【言語の働き】 共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案する</p> <p>【文法】 仮定法</p>	<p>第 2 学期 期 末 学 年 末 第 2 学期 期 末 学 年 末 第 2 学期 期 末 学 年 末 第 2 学期 期 末 学 年 末 第 2 学期 期 末 学 年 末</p>	<p>【知識】 共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【技能】 学んだ知識を用いて, 共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 共感 [賛成・反対] を述べたり, 残念に思う気持ちを伝えたりしている。また, 相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>	<p>自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 共感 [賛成・反対] を述べたり, 残念に思う気持ちを伝えたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>

		Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿	<p>[題材内容] 学校の英字新聞に投稿する記事のライティング</p> <p>[領域] (◎主/○従) ○話すこと ◎書くこと</p> <p>[言語の働き] 要望や主張を述べる、理由を述べる</p> <p>[文法] 仮定法</p>		<p>[知識] 要望や主張を述べる、理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 学んだ知識を用いて、要望や主張を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>相手の意見や立場を理解し、適切な表現を用いて、要望や主張[自身の意見]を述べたり、要望や主張をサポートする理由を述べたりしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現している。</p>
2	9 10 10 11	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	<p>[題材内容] 電子書籍と紙の書籍についてクラス全体でチョークディベートをする場面</p> <p>[領域] (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>[言語の働き] 理由を述べる、例を挙げる</p> <p>[文法] to 不定詞と動名詞</p>	<p>第2学期 中間考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>学年末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p>	<p>[知識] 理由を述べる、例を挙げるときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 学んだ知識を用いて、理由を述べる、例を挙げるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を説得するために自説を補強する理由を述べたり、自説に合った例を挙げたりしている。また、考えや気持ちなどを表現している。</p>
		Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート②	<p>[題材内容] 電子書籍と紙の書籍についてクラス全体でチョークディベートをする場面</p> <p>[領域] (◎主/○従) ◎話すこと (やり取り) ○書くこと</p> <p>[言語の働き] 相手の意見に反駁する、相手の意見を引用する</p> <p>[文法] 否定語の使い方</p>	<p>第2学期 期末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>学年末考査</p> <p>第2学期 期末考査</p> <p>学年末考査</p> <p>学年末考査</p>	<p>[知識] 相手の意見に反駁する、相手の意見を引用するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] 学んだ知識を用いて、相手の意見に反駁する、相手の意見を引用するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。</p>	<p>相手の意見を理解し、適切な表現を用いて、反駁したり、相手の発言を引用したりしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現している。</p> <p>自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、反駁したり、相手の発言を引用したりして、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。</p>

3	10	Unit 2	[題材内容] 自らの子供のころの経験についてのスピーチ [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (発表) ○書くこと [言語の働き] できごとをいきいきと描写する, 経験からアドバイスをする [文法] 後置修飾, 受動態	第2学期 期末考査	[知識] できごとを生き生きと描写する, 経験からアドバイスをするときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて, できごとを生き生きと描写する, 経験からアドバイスをするときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, できごとを生き生きと描写したり, 自分の経験に基づくアドバイスをしたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, できごとを生き生きと描写したり, 自分の経験に基づくアドバイスしたりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
	11	Lesson 3		第2学期 期末考査			
	11	経験談のスピーチ		第2学期 期末考査			
	12	Unit 2	[題材内容] オリエンテーリングのルールや手順を紹介するスピーチ [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (発表) ○書くこと [言語の働き] ルールや手順を順序だてて説明する, 聞き手の知識に合わせて説明する [文法] 現在完了形と過去形	第2学期 期末考査	[知識] ルールや手順を順序立てて説明する, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて, ルールや手順を順序立てて説明する, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現を適切に運用している。自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の理解に配慮し, ルールや手順を順序立てて説明したり, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, ルールや手順を順序立てて説明したり, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明したりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
	Lesson 4	学年末考査					
	遊びやスポーツを紹介	学年末考査					
	11	Unit 2	[題材内容] 日本の文化 (こんにやく) をPR するスピーチ [領域] (◎主/○従) ◎話すこと (発表) ○書くこと [言語の働き] 事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明する [文法] and, but, so	第2学期 期末考査	[知識] 事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて, 事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	事実と意見を区別して述べたり, 相手の認識に配慮し, 客観的に説明したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 事実と意見を区別して述べたり, 相手の認識に配慮し, 客観的に説明したりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
	12	Lesson 5		学年末考査			
	12	日本をPR		学年末考査			
	1			学年末考査			
				学年末考査			

3 【課題・提出物など】 ◎ Make Your Own ◎ 準拠ワークブック (Model)	1			学年末 考 査			
	2						
	2						
	2						

【評価方法】

- ① 授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。(思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度)
- ② Model の内容理解を確認する。(知識・技能, 思考・判断・表現)
- ③ Make Your Own への取り組みを教員または生徒同士が評価する。(知識・技能, 思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度)
評価項目: 機能への理解とその活用, 取り組みの熱心さなど (ルーブリック)
- ④ テーマに関連した活動に使える表現について理解しているかを筆記テストする。(知識・技能)
小テスト/中間・期末考査/評価問題など
- ⑤ 上記課題の内容や提出状況 (知識・技能, 思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度)

調理科	科目名	家庭総合	担当者	長田なみ子 幸地ひより	校長	教頭
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科					
履修学年	第 2 学年	履修単位	2 単位			
概要及び目標	「家庭総合」は2・3学年で2単位ずつ学習する。2学年では「家族」、「経済生活」、「高齢者」、「衣生活」「持続可能な生活」の各分野を学習する。					
評価基準及び方法	定期考査、授業態度、提出物（ファイル・作品・課題など）を総合的に評価する。					
使用教科書及び教材	教科書・・・「家庭総合」（東京書籍） その他資料はその都度配布					

学習計画

月	単元名	学習内容	備考
4	オリエンテーション	「家庭総合」の学習意義や内容・方法・評価について	
4 5	第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	
6 7	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	
8	ホームプロジェクト	夏休みの課題について	
9 10	第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活 <u>* トートバック製作</u>	
11 12	第9章 経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活 <u>* 出前講座</u>	
	第10章 持続可能な生活を営む	1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	
1 2	第5章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	
3	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 高齢者を支える 4 これからの高齢生活 <u>* 体験的活動</u>	